

重点目標	課題	自己評価		学校関係者評価 学校関係者の意見	次年度への課題と 今後の改善方策	
		評価指標と活動計画	評価			
進路指導の充実とキャリア教育の推進  1 生徒に卒業後の目標を持たせる。  2 基礎学力の充実に、さらなる学力の向上を目指す。  3 進路を開拓するとともに、キャリア教育を推進する。	1) 望ましい生活習慣と学習習慣の確立	評価指標 1) ①-1 毎日の遅刻者の割合 前年度比5%減 ①-2 頭髪・服装等で指導された生徒の割合 前年度比5%減少 ② 生徒・保護者・教職員アンケート「能率手帳が生活・学習習慣の確立に役立っている。」60%以上 ③ 生徒・教職員アンケート「チャムと同時に授業を始めた」80%以上 ④ 家庭学習時間 平均2時間以上	評価指標の達成度 ① 遅刻生徒は平成25年度は50名であったが、平成26年度は10名で、倍増し目標を達成することはできなかった。ただ、5回以上遅刻した生徒は3名から1名に減少した。 ② 生徒64%、保護者61%、教職員83%  ③ 生徒87%、教職員92% ④ 平均1.6時間で目標を達成できなかった。	(評定)  <b>B</b>  (所見) マナトレやラレボなど取り組みについては肯定的意見が75%となっており、生徒が基礎学力定着の必要性を自覚していることが伺える。 昨年度から新たに取組んでいる「能率手帳」については肯定的な意見が保護者では61%と昨年の2倍近い数字になった。昨年は保護者の42%が「能率手帳」の活用を知らないと回答していたが、今年度は18%に低下し、本校の取り組みを保護者に知ってもらう努力が少しずつではあるが成果を上げてきている。 各種検定については、昨年度までは合格率を評価指標にしていたが、今年度は検定受験回数に変更した。 学年ごとのおおよその実施回数は1年2回、2年生は5回 3年3回と2年生と受検意欲は高く、クラスによるばらつきはあるが、平均合格率は65%と高くなっている。 しかし、個別の検定についてみてみると、漢字検定や英語検定の合格率は低下傾向にある。学習時間の確保の大切さなど合格をするためには何が必要かを繰り返し指導していく必要がある。	○ 挨拶ができ、人に親切なところを学校生活において更に伸ばしてほしい。  ○ 授業参観をして、生徒の授業態度も良好で、熱心にきめ細かな指導を行っておりチームティーチングなどで「わかる授業」をしてもらっていた。  ○ 一人一人に応じた進路指導を更に進めて、進路保障に繋げてほしい。  ○ 能率手帳の活用については生活習慣と学習習慣の確立に役立つので、引き続ききめ細やかな指導をしてほしい、また、学習時間を増やせるようにも努力してほしい。	1) 能率手帳の利用について、保護者への周知を図る。  2) 生徒の「学び直し」を系統的・継続的に実施する。  3) キャリア教育を充実させるとともに、面接の機会を活用し、生徒の学びに対する意欲や関心を高める。  4) 教科横断的な指導をするために他教科の指導についても教員同士が知る必要がある  5) 各種検討会においては活発に意見交換を行い、学習と部活動の両立について、教職員間で課題の共有を図る。  6) 読書量はクラスにより差がある。月1冊以上の目標を達成できているクラスもあるが、1年間に1冊に達していないクラスもあるので、読書量が少ないクラスに、ブックトークを行うなどの取り組みが必要がある。
	2) 基礎的・基本的な知識・技能の確実な育成	2) ① 生徒アンケート「授業内容は分かりやすく工夫されている」80%以上 ②-1 生徒アンケート「確認テスト・小テストが役にたった。」80%以上 ②-2 生徒アンケート「個別指導が役にたった。」80%以上 ③ 生徒アンケート「マナトレやラレボが役に立った」60%以上	① 生徒87% ②-1 生徒87% ②-2 生徒83% ③ 生徒75%			
	3) 一人一人の状況把握ときめ細かな支援	3) ① 担任アンケート「個人面談を各学期1回以上実施した」80%以上 ②-1 担任アンケート「三者面談を年1回以上実施した。」80%以上 ②-2 生徒・保護者アンケート「進路に関する情報の提供が適切に行われている。」80%以上	① 担任100% ②-1 担任100% ②-2 生徒87% 保護者85%			
	4) 体系的な進路指導の推進	4) ①-1 生徒・保護者アンケート「学校は進学・就職の指導に力を入れている。」80%以上 ①-2 生徒・保護者アンケート「総合的な学習や進路ガイダンスが進路選択に役に立った。」80%以上 ② 教職員アンケート「検討会等を実施し、3年間を通じた系統的な進路指導を行っている。」80%以上 ③ 一人あたりの検定受験回数 3回以上	①-1 生徒93% 保護者89% ①-2 生徒85% 保護者86%  ② 教職員91.7%  ③ 一人あたりの検定受験回数 2.93回 H25 → H26 合格率 漢検 44.4% → 漢検・日本語検定 58.9% 数検 16.7% → 34.4% 英検 48.2% → 39.3% 商業 58.9% → 59.7% 家庭 97.0% → 98.9%			
	5) 文武両道の奨励	5) ① 教職員アンケート「部活動・クラス担任・教科担任間で連携ができている。」80%以上 ② 学年集会の実施回数 学期に1回以上。全校集会の実施回数 月1回以上。	① 教職員92%  ② 学年集会、全校集会とも100%			
	6) 学校図書館を活用した読書活動の推進	6) ① 図書館主催のイベント開催回数 各学期1回以上 ② 毎月読書冊数 1冊以上(漫画・雑誌を除く)	① 1・2学期に各1回 ② 月0.6冊			

		活動計画	活動計画の実施状況			
		<p>1) ① 遅刻の防止や挨拶の励行や服装・頭髪など身だしなみについて指導を行い、基本的な生活習慣の確立を図る。</p> <p>② 能率手帳を導入し、生活習慣と学習習慣の確率に役立てる。</p> <p>③ 始業のチャイムと同時に授業を開始する学校の雰囲気作りを行う。</p> <p>④ 能率手帳を活用し家庭学習時間調査を実施し、家庭学習時間の確保を図る。</p>	<p>① 全校集会や学年集会などで繰り返し指導。</p> <p>② 能率手帳活用についてのイントロダクションを HR 活動で実施。優秀な作品については各学期ごとに表彰。</p> <p>③ 全校集会で指導。</p> <p>④ 能率手帳を活用し、毎月の家庭学習時間調査を実施。</p>			
		<p>2) ① 各教科で学習指導方法の工夫や改善について検討し分かる授業の実施に努める。</p> <p>② 小テスト・確認テスト等を活用し、基礎基本の徹底を図るとともに、学習の遅れがちな生徒に対しては個別指導を行う。</p> <p>③ マナトレやラレボを活用し、義務教育範囲の学び直しを行い、基礎学力向上を図る。</p>	<p>① 各教科で進度や生徒理解のための情報交換を実施。</p> <p>② 必要に応じて個別指導を徹底。</p> <p>③ 学年団で連携を密にして計画的に実施。合格するまで再テストを行い効果的に学び直しが行えた。</p>			
		<p>3) ① 個人面談・三者面談を実施し、生徒が進路について主体的に考え行動する姿勢を育てる。</p> <p>② 三者面談や進路保護者会を通じて、適切な進路情報や資料を提供し、個々の進路希望や適性に応じた進路指導に繋げる。</p>	<p>① 個人面談は各学年とも必要に応じて実施。</p> <p>② 3年生保護者対象の進路説明会では、パワーポイントと資料を用いて分かりやすい進路情報を提供。保護者の出席率は前年に比べて増加した。</p>			
		<p>4) ① 総合的な学習や進路ガイダンス、個人面談を活用し、発達段階に応じた進路指導を実施し、目標の設定や学習意欲の向上につなげる。</p> <p>② コース選択検討会、教科担任会、進路個別検討会を実施し、3年間を通じた系統的な進路指導を推進する。</p> <p>③ 各種資格の取得や漢字検定・英語検定など検定試験の受検を奨励し、合格率の上昇に努める。</p>	<p>① 各学年とも発達段階に応じた進路ガイダンスを実施。</p> <p>② 1年はコース選択、2年は進路意識の高揚、3年は進路決定という目標に、計画通り実施。</p> <p>③ 検定受検回数は1人2.9回とほぼ目標を達成した。今年度から語彙読解力検定の受検を始めたが、検定全体の合格率は65%で、どの検定についても合格率は昨年より上昇している。</p>			
		<p>5) ① 部活動の顧問・クラス担任・教科担任が連携し、生徒の学習習慣や成績について教職員の共通理解を図る。</p> <p>② 学年集会や全校集会を通して、学習と部活動にメリハリをつけて取り組める姿勢を育てる。</p>	<p>① 情報交換会や学年会を実施。</p> <p>② 学年集会や全校集会で、能率手帳を利用して学習と部活動の両立ができるよう取り組んでいる。クラス担任、部活動顧問の双方が能率手帳のチェックをしている。</p>			
		<p>6) ① 調べ学習や読み聞かせを通して、図書館の積極的な活用を推進する。</p> <p>② 「朝の読書」の実施や学級文庫を活用し、読書習慣を定着させ、読解力や理解力の向上を図る。</p>	<p>① 国語や理科、芸術教科で調べ学習を実施。全校読書会の実施や毎月『図書館便り』を発行し、図書館活用を啓発した。</p> <p>② 「朝の読書」は担任・副担任で月・水・金の3日取り組んだ。生徒の47%、保護者の44%が本をよく読むようになったと回答している。しかし、1人あたりの読書量は月1冊以上を目標にしていたが、月0.6冊で目標には達しなかった。</p>			

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策	
重点目標	課題	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見		
<p>人権教育の推進と学習環境の整備</p> <p>1 人権を尊重し、ともに支え合う仲間づくりを推進する。</p> <p>2 快適な学習環境を整備する。</p>	<p>1) 人権教育の組織的な推進体制の充実</p> <p>2) 人権問題について正しい理解を求め、啓発活動の実施</p> <p>3) 情報モラルの育成</p> <p>4) 生徒の悩みやいじめの早期発見と適切な対応</p> <p>5) 安全・安心な学校環境の提供と救急処置体制の確立</p> <p>6) 清潔で快適な学習環境の整備</p> <p>7) 災害等に対処できる教育の充実</p>	<p>評価指標</p> <p>1) ① 教職員アンケート「計画通り実施できた。」80%以上</p> <p>② 人権新聞の発行回数 5部以上</p>	<p>評価指標の達成度</p> <p>① 教職員 92%</p> <p>② 星友会新聞は人権新聞として人権委員と人権研究部が協力し、5部発行。</p>	<p>○ 教育相談や個別の問題についても保健室や関係先生方等で適切な指導を行っている。</p> <p>○ 保健室利用の生徒に対しては、養護教諭・保健主事・正副担任を中心に指導をよく行っている。</p> <p>○ カーテンが引かれていて、暗いと感じた。また、カーテンが開いていたところの教室環境について考えてほしい。照度検査の結果を生かしてほしい。</p> <p>○ 耐震工事への安全対策を万全にして実施してほしい。また、水質の検査や環境整備を十分に行ってほしい。</p>	<p>1) 人権新聞の家庭への持ち帰りを徹底する。</p> <p>2) PTA人権教育研修の保護者の参加については、日程設定や周知方法の改善を図る。</p> <p>3) インターネット等による人権侵害について、生徒の実態に応じた指導を行う。</p> <p>4) 保健室や昼休みの教育相談室での相談活動等で把握した生徒の悩みに対して、ケース会議や生徒情報交換学年会で支援方法の検討を継続し、複雑多様化している生徒の悩みに適切に対応していく必要がある。</p> <p>5) 緊急場面で冷静に連携のとれた救急対応ができるように場面設定をしたシミュレーション研修を毎年継続し、救命処置の実践力向上を目指す必要がある。</p> <p>6) 老朽化した校舎を清潔に保つには生徒・教職員の清掃が欠かせない。教職員の評価も昨年より向上したのでこれを継続したい。また、一部の分別できていない生徒の意識を高める取組が必要である。</p> <p>7) 東南海地震に備えて防災訓練は絶対に必要である。回数だけでなく内容も工夫したい。また、衛生検査や照度検査の結果が反映できるように、養護教諭と担任・教科担任が密接に連携・対応できる体制を整える。さらに、耐震業者との打合せの機会を活用し、学校側の要望を十分伝え、安全対策を万全にする。</p>	
		<p>2) ①-1 保護者・生徒の参加者数 各4名以上</p> <p>①-2 教職員アンケート「研修後に啓発ができた」80%以上</p> <p>② 教職員アンケート「保護者・地域の方々への参加呼びかけを行い、人権講演会後の啓発・ホームルーム活動への利用ができた。」80%以上</p>	<p>①-1 保護者7名、生徒6名の参加。</p> <p>①-2 教職員 83%</p> <p>② 教職員 80%</p>			<p>(評定)</p> <p><b>B</b></p>
		<p>3) ①-1 校内でのインターネット・携帯電話・スマートフォンによるトラブル相談件数 2件以下</p> <p>①-2 各学年での学習活動 年間1回以上</p> <p>② 教職員のセキュリティーポリシー研修 3回以上</p>	<p>①-1 3件見られた。</p> <p>①-2 人権学習HR活動や人権教育・生徒指導講演会等で学習。</p> <p>② 3回実施した。</p>			<p>(所見)</p> <p>昨年度と同様、救急処置体制や防災訓練など、生徒の安心安全な学校環境作りができています。</p> <p>また、「生徒・保護者の相談に学校は誠実に対応できている」についても肯定的回答が多かった。生徒の肯定的回答も昨年度より僅かに増加しており、生徒の悩みに対する相談に適切に対応できるよう教職員間の連携を図っていく必要がある。</p> <p>本校の人権教育については、計画に沿って概ね達成できているが、計画を変更することもあった。</p>
		<p>4) ① 生徒・保護者アンケート「相談に学校は誠実に対応してくれている」80%以上</p> <p>② 教職員アンケート「精神的支援が必要な生徒の対応を関係者と連携を取りながら行った」80%以上</p> <p>③ アンケート調査の実施回数 年2回以上</p>	<p>① 生徒 71% 保護者 85%</p> <p>② 教職員 99%</p> <p>③ 2回実施</p>			
		<p>5) ① 生徒・保護者アンケート「救急処置体制の確立などで、安心・安全な学校環境の整備が図られている。」80%以上</p> <p>② 教職員アンケート「AEDを用いた救命処置ができる」100%</p>	<p>① 生徒 81% 保護者 90%</p> <p>② 教職員 96%</p>			
		<p>6) ① 生徒・教職員アンケート「真面目に清掃に取り組んでいる」80%以上</p> <p>② 生徒・教職員アンケート「ゴミの分別はできている」80%以上</p>	<p>① 生徒 89% 教職員 88%</p> <p>② 生徒 93%</p>			
		<p>7) ① 校内巡視の実施回数 毎日2回以上</p> <p>② 防災訓練の実施回数 年2回以上</p>	<p>① 2回以上実施</p> <p>② 2回実施</p>			

		活動計画	活動計画の実施状況			
		1) ① 「本校の人権教育」に沿ったホームルーム活動、啓発、研修を行う。 ② 人権新聞を発行して、人権意識の高揚を図る。	① ホームルーム活動、啓発、研修を計画通り実施。 ② 人権新聞は人権委員会と人権研究部で協力して発行した。			
		2) ① PTA 人権教育研修を実施し啓発活動を図る。 ② 人権講演会の実施により、生徒の人権意識の高揚を図り、保護者・地域の方々への啓発を行う。	① PTA 人権教育研修を実施。また、蕨の葉祭展示や、人権新聞発行を行った。 ② 人権講演会の実施後、生徒に感想文を書かせ、人権新聞でその感想を紹介するなど、生徒の人権意識の高揚を図った。保護者・地域の方々の参加は無かった。			
		3) ① 授業やHR活動、「人権の日」を通して、情報モラルの重要性の理解に努める。 ② 情報セキュリティーポリシー実施手順に沿ったネットワーク運用を行う。	① 1年生の情報Aの授業で情報モラルに関する授業を3時間実施。HR活動や講演会などで3学年共通の学習を行った。 ② 各学期1回以上研修を実施。			
		4) ① 情報交換会、学年会等で職員間の情報交換を行い、支援を必要としている生徒の早期発見に努め、共感的態度で対応する。 ② 組織的な相談体制確立のために必要に応じて特別支援教育委員会やケース会議を実施する。 ③ 学校いじめ防止基本方針に則り、アンケート等を実施し、いじめの早期発見と適切な対応を行う。	① 全職員参加の情報交換会を各学期1回の学年会で実施。 ② ケース会議や特別支援教育委員会を実施し、関係者が連携して対応した。 ③ いじめに関するアンケートを年間2回実施。			
		5) ① 安全点検、学校環境衛生検査により不備な箇所を把握改善し、望ましい環境下での学習能率の向上や健康の保持を図る。 ② 救命措置の必要な場面を設定したシミュレーション研修を実施し、実践力の向上を図る。	① 安全点検、学校環境衛生検査を実施し、不備な箇所を全て改善した。 ② 救命措置シミュレーション研修を実施。			
		6) ① 全生徒・職員によって清掃活動を徹底し、教室・廊下等の整理整頓を励行する。 ② ゴミの分別を徹底し、エコ意識の向上を図る。	① 大掃除や毎日の清掃に真面目に取り組むとともに、耐震工事もあるため普段使っていない教室も片付けた。 ② 雑紙回収も定着してきた。ゴミ捨て当番が最終的に缶やペットボトルをきちんと分別してから捨てている。			
		7) ① 毎日、校内巡視を行い、危険箇所等の把握に努め、安全・安心な学校環境の提供に努める。 ② 防災避難訓練を実施し、生徒・職員の防災対応能力を高め、災害時には自分の身を守るだけでなく、周囲への配慮ができる資質を育てる。	① 校内巡視は毎日、学年でも複数で実施し安全・安心な環境作りに取り組んだ。 ② より実践的な訓練のため、通行できない箇所を増やしたり、担架を使用しての避難を実施した。			

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策	
重点目標	課題	評価指標と活動計画	評価	学校関係者の意見		
<p>地域に根ざした信頼される学校づくり</p> <p>1 開かれた学校づくりを行う。</p> <p>2 地域に根ざした学校運営を推進する。</p>	<p>1) 家庭や地域社会への積極的な情報発信</p> <p>2) P T A 活動の活性化</p> <p>3) ホームページを利用した広報活動充実</p> <p>4) 地域との連携の推進</p>	<p><b>評価指標</b></p> <p>1) ①-1 保護者アンケート「辻高校のホームページをみたことがある」80%以上 ①-2 生徒アンケート「辻高校のHPをみて役立っている」60%以上 ② 学校開放日 年間実施回数2回以上 ③ 学校評議員会 年間実施回数2回以上</p>	<p><b>評価指標の達成度</b></p> <p>①-1 保護者 42 % ①-2 生徒 35 % ② 「徳島教育の日」等含め2回以上実施 ③ 年2回実施</p>	<p>(評定)</p> <p style="text-align: center;"><b>A</b></p> <p>(所見) 「学校ホームページ」は頻繁に更新することができた。 特に今年度は「辻高校創立100周年」に向けて同窓会のホームページ・コーナーを設置し、期成同盟会の取り組みを発信することができた。卒業生や保護者、地域との連携の機会も増やすことができた。 また、葛の葉祭は保護者に加え近隣の人々も見学しており、地域の人々との交流の良い機会にもなっている。 さらに、ボランティア活動に参加する生徒は多く、今年度は辻駅だけでなく、辻高校周辺の国道沿いや辻が浜にも活動範囲を広げて活動できた。今後も継続して実施していきたい。</p>	<p>○ 井川町なでしこ祭り、三好市まちかどフェスティバル、四電プラザ池田などの様々なボランティア活動に参加できている。更に、地域と連携をし辻高校の活躍を広めてほしい。</p> <p>○ 学校行事や運動部・文化部での活動が盛んに行われていることを、新聞や地域広報誌・学校ホームページなどで見ている。</p>	<p>1) 学校行事やHP、地域の広報誌等を活用するなど様々な方法で辻高校の取り組みを知ってもらうことが大切である。</p> <p>2) P T A との連携を深め、保護者・地域との関係を強化することが課題である。</p> <p>3) 三校再編をにらみ、部活動の精選を図るとともに、部活動時の事故や体罰の防止に努め、生徒がきる部活動指導を行う。 また、部活動での活躍は学校のホームページや葛の葉便り、地域の広報誌などを通じて積極的に発信する。</p> <p>4) 三好市・東みよし町などの関係機関と連携し、地域のイベントに積極的に参画する体制を整える。</p>
		<p>2) ① P T A 総会への出席率 前年度比5%以上 ② P T A 新聞「葛の葉便り」の発行回数 年2回以上 ③ 保護者の学校行事参加回数 年2回以上</p> <p>3) ① 教職員アンケート「迅速に辻高校のHPに情報を掲載できている。」80%以上 ② 教職員アンケート「同窓会のHPは充実している。」80%以上</p> <p>4) ① 生徒のボランティア活動への参加80%以上 ② 教職員アンケート「地元中学・高校との情報交換を図ることができた。」80%以上</p>	<p>① 前年度75名から今年度125名と出席率が60%増加した。 ② 年2回の発行 ③ 各行事ともほとんどが特定の保護者の参加であり、全保護者の年2回参加は実現できなかった。</p> <p>① 教職員 83 % ② 教職員 83 %</p> <p>① 1学期の参加率81%、2学期の参加率は59% ② 教職員 79 %</p>			
		<p><b>活動計画</b></p> <p>1) ① 各種学校行事に関する内容や配布物(保健だより、図書館だより、葛の葉だより等)をホームページに載せ保護者との連携を強化する。 ② 学校開放日に授業を地域の人たちに公開する。 ③ 学校評議員会を開催し、授業公開や意見交換を行う。</p> <p>2) ① 保護者との連絡を密にし、保護者参加行事の出席率の向上をめざす。 ② P T A 新聞「葛の葉便り」を通じて生徒の活動、学校行事等の状況を知らせる。 ③ 魅力あるP T A 行事を催し、保護者の積極的参加を促す。</p> <p>3) ① 教職員への研修を行い、HPのコンテンツの充実に努める。 ② ホームページに同窓会のページを作成する。</p> <p>4) ① 清掃活動やスポーツイベントなどのボランティア活動を通して、地域との連携を図る。 ② 地元中学校・高等学校との情報交換を図り、地域と連携した教育活動の推進に努める。</p>	<p><b>活動計画の実施状況</b></p> <p>① 学校行事の内容については、トピックスに掲載した。また、トップページに特に知ってほしい行事や情報を掲載した。 ② 学校祭には地域住民の方々が多数見学した。 ③ 学校評議員会を年間2回開催し、貴重な意見を伺うことができた。</p> <p>① 行事への参加の呼びかけなどを積極的に行った。 ② 年2回発行。 ③ 料理講習、P T A 人権研修などを実施し、例年並みの出席率であった。</p> <p>① 「部活動戦績速報」コンテンツを新設し、教員がより迅速に部活動の戦績を掲載できるようにさらに改善した。 ② 同窓会のコーナーを設置した。</p> <p>① 辻高校周辺の清掃活動や福祉施設のイベントに参加し、地域の人々と交流した。 ② 地元の高校や地域との連携を図ることができた。中学校との交流はあまり図れなかった。</p>			

\* 「評定」の基準 A：十分達成できた B：概ね達成できた C：達成できなかった